科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I 103 (90)			*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を単語力の補強のために使いました。		*センターの過去問を「過去問データベース」で数年分解きました。	*センターの過去問を解いていました。	*過去の東大本番レベル模試を解いて実戦的な演習をしました。	*僕は元々英語が得意だったため、英語の勉強量は少なめでしたが、単語力の強化には結構な時間を割いていました。あとは、英語は時間が厳しめなので、120分で解く練習は積んだ方が良いと思います。ちなみに、問題を解く順番はかなり重要だと思います。	*高1～高2頃に、アメリカに留学していました。
文 I 61 (60)	*塾の教材で長文、『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)でリスニングをやりました。リスニングは問題を解きました。		*1日長文2個、リスニングは『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を1日1題ずつ、英作文は基本構文の暗記を行いました。	*長文1日1つ。 *リスニング(週3日は模試の過去問、残りの日は『CNN』など)。	*学校でセンター対策がはじまったので、そこでやった英語の発音・文法で間違った問題をノートにまとめる。 *リスニング(模試過去問のうち、2010年以前の古いもの)。	*学校でのセンター対策。 *過去問を用いて東大のリスニングを1日1題。	*東大模試の過去問を120分で1セット(2日に1年分ペースで)。 *英語に触れるようにしました。	*ひたすら毎日長文とリスニングをしました。	
文 I 61 (70)				*二次の過去問を大問ごとにやっていました。学習効果は薄かったです。		*センターの過去問は1年だけやりました(センター本番ではパニックに)。	*直前に東大本番レベル模試を6回分やり、問題形式に慣れました。	*直前に慌てふためいても、僕の場合はどうにもなりません。よく言われることですが、コツコツと読む・書く・聴くを欠かさずにやるのが有効だと思います。英語運用能力が低いと、大学に入ってからつらい思いをすることになります。	
文 I 75 (75)	*『減点されない英作文』(Gakken)で後ろの方の定型文を暗記していました。 *『東大の英語25ヵ年』(教学社)で主に1Aを解いていました。	*『英検準1級語彙・イデオム問題500』(旺文社)で主に熟語を暗記しました。 *『東大の英語25ヵ年』(教学社)で主に1B・5を解きました。 *『ドラゴンイングリッシュ基本英文100』(講談社)の例文を暗記しました。	*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)は英語の参考書の中で唯一やりきったものです。直前までずっと携帯していました。	*『英検1級リスニング問題150』(旺文社)を使い、朝起床後すぐに長めの問題を2問解いていました。	*『早稲田の英語25ヵ年』(教学社)をやりました。	*発音・アクセントに関して、原則を出来る限り多く覚えるようにしました。	*『鉄緑会東大英語リスニング』(KADOKAWA)を1章/日ペースでやりました。 *冠模試等の、東大英語の過去問。	*英語はとにかく毎日欠かさず勉強することが大切だと思います。過去問は始めるのが早すぎても、遅すぎてもいけないです。僕は英語の過去問を虫食い式に夏休みに消費してしまい、問題不足に陥りました。	
文 I 91	*高2のうちに基礎を固めていたので、『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)や『Next Stage 英文法・語法問題』(桐原書店)を用いて知識の強化を図りました。また、リスニング対策としてNHKラジオの「攻略!英語リスニング」を始めました。東大リスニング対策の入門として、分量、難易度ともにちょうど良い素材だと思います。	*1971年以降から最新のものを除いた過去問をやり始めました。良質な問題が多いのでやる価値ありだと思います。その際の注意点は2つ。一つは、「じっくり考えて利用すること。まだ時間に神経質になるべき時期ではないと思ったので思考力養成に重点を置きました。もう一つは、「赤本などの解答を信頼しすぎない」こと。よりよい解答を自分が作る!という意識でとりました。	*模試にあわせて、時間を測って模試の過去問を解く実践練習を数度行いました。ただ、現役は夏休みに地歴理科を最優先するべきなので、あまり時間を取られないように気をつけました。	*秋模試に合わせた練習を行いました。この時期あたりから、「灘高キムタツの東大英語リスニング」(アルク)など、より本番に近い形式の素材を用いたリスニング対策を行い始めました。また、『CNN English Express』を購読し、新しい素材を求め続けました。	*秋同様の訓練を休まずに続けました。	*リスニングのみ毎日行いました。また、センター対策として発音や文法の演習を『Next Stage 英文法・語法問題』(桐原書店)や過去問で行いました。	*毎日1セット模試の過去問を解き、時間配分について考え続けました。この時に理想の解く順番を見つけたのが大きかったです。	*知識問題を取りこぼさないこと! 記述問題では案外差がつかせません。そのためには平日頃より英語に触れ、知識を吸収してやろうという姿勢をもつことが大事です。また、一見詰め込み過ぎでは対応しづらいように見えますが、リスニングは直前期の詰めこみが上手いくことも。あきらめず最後まで英語にふれつづけましょう!	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文Ⅰ 75 (85)			<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社) 時間を計り問題演習を行いました。</p> <p>*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版) 読み進めるのに加え、文章題で出てきた単語もこの教材で復習しました。</p>	<p>*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版) この頃に1周しましたが、まだ定着が危うかったため、文章などで分からない所があれば辞書よりまずこちらを参考にして思い出す習慣をつけました。この利用法は最後まで行いましたが、単語の定着が未完成なこの時期にもっともよくこの単語帳を開いていました。</p>		<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社) 英語の教材そのものに触れていることでセンター試験にも対応できると考え、東大の過去問を解き進めていました。これでカバーできない発音・アクセント等は学校で配られたプリントなどで補強しました。</p>	<p>*『東大の英語25ヵ年』(教学社) 残っていた最近の問題を解きました。</p> <p>*『東京大学への英語』(駿台文庫) 駿台の東大実戦模試の過去問です。英語の教材に多く触れたかったため使いました。</p>	<p>* 単語は、文章で出てきた際に復習することで身につけていきます。そのように単語を覚えるためにも、英語という言語そのものに馴染むためにも、英語で書かれた文章に平日頃から触れることが何より大事だと思います。</p>	
文Ⅱ 75	<p>* 塾で週1度の英語のテストを受講していました。この時期は英語に時間を割きませんでした。</p>		<p>* 英語の成績が下がっているように感じたので、単語帳を購入して単語力の強化を行いました。英文を読み飛ばすくせができたので精読に努めました。</p>	<p>* 東大の過去問を解き始めました(過去問演習講座で添削を受けました)。</p>	<p>* センター対策を兼ねて、『頻出英文法・語法問題1000』(桐原書店)、『Vintage』(いづな書店)という文法書をやり直しました。今までに使用した単語帳の復習を開始しました。</p>	<p>* センター対策はせず、二次試験対策を行っていました。具体的には英語テストの復習や、新しい長文を読んでいた。</p>	<p>* 残っていた直近5年分ほどの過去問を解き、リスニングに力をいれました。英作文は添削してもらいました。本番では失敗しましたが、この頃には90点以上を目指せるようになっており、英語に触れることに重点を置いていました。</p>		
文Ⅱ 61 (60)	<p>* 学校行事が忙しく、特に勉強しませんでした。</p>	<p>* 過去問演習を週1回行っていました。間違った箇所の確認と見直しを重点的に行いました。</p> <p>* 長文については『長文問題精講』(旺文社)を2周しました。</p> <p>* 電車の行き帰りで『東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)をながめてポキブライの定着を図りました。</p>	<p>* 東大即応オープンで73点、東大入試実戦で43点を取り模試が正しいのかわからなくなったので駿台模試の過去問を購入し、解きました。</p> <p>* 過去問は続行。</p>	<p>* ひきつづき過去問を週1回解きました。</p> <p>* 通学時間は『東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)、暇な時間に『解体英語』(Z会)をながめて間違えたところのリストアップ。</p>	<p>* センターの学習を始めたので過去問は一休み。PodcastでCNNのラジオ(大統領選演説)を聴いていました。</p>	<p>* センター過去問を3年分解いてセンター慣れをしました。</p> <p>* 『発音・アクセントが9割とれる本』(中経出版)で発音・アクセント対策をしました。</p>	<p>* 過去問の残りを使い、各大問ごとに対策を立てました。</p> <p>* 『東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を朝1時間で1周することをルーティーンとして、勉強へのスイッチとしました。</p> <p>* 『鉄緑会東大英語リスニング』(KADOKAWA)を使って、リスニングの訓練をしました。</p>	<p>* 目的意識を持って学ぶことが肝心です。むやみやたらに文を読むのと量をこなすことは大違いです。</p> <p>* 単語(特に動詞)を覚えるときは用法(仲のいい前置詞など)も一緒に覚えるべきだと思います。</p>	
文Ⅱ 62 (60)			<p>* この時期に赤本を買い、苦手だった1Bや5を数年分解きました。また東大模試の過去問も活用しました。</p>	<p>* 和訳が苦手だったので『ビジュアル英文解釈』(駿台文庫)を利用しました。ただ、この時期にもっと英語をやっておけばよかったと思います。</p>	<p>* 赤本でまだ解いていない問題を解き始めました。また英語の多読を行いました。</p>	<p>* 文法問題や発音問題がセンター英語の苦手ポイントだったので、過去問を利用し一気に攻略を図りました。</p>	<p>* 東大模試の過去問を大量に集め、120分間で1セット解く訓練を進めました。過去問は解くというより見直すものとして利用しました。</p>	<p>* 英語ができると本当に有利です！分野別・的を絞って攻略していきましょう。「得意科目がない……」という人はまず英語から取り組むことをおすすめします。</p>	
文Ⅱ 55 (60)	<p>* 東進で『東大英語』(太先生)を受講。</p>		<p>* 『全解説頻出英文法・語法問題1000』(桐原書店)を1日200題ずつ、5日で解きました。</p> <p>* 『キムタツの東大英語リスニング Basic』(アルク)を1日1問ずつ、リスニング→ディクテーションの繰り返しでこなしました。</p>	<p>* 『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を1section/1日のペースで。</p>	<p>* 『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)をA,B,Cで分けて1題30分、最後の方は通しでやりました。</p>		<p>* 『キムタツの東大英語ライティング & グラマー』(アルク)を1日1セッションずつ。</p>	<p>* とにかく単語(＋イディオム)とリスニングは毎日確認しました。単語力さえあればなんとかなります。</p>	
文Ⅱ 64 (70)			<p>* 『標準問題精講』(旺文社) 初めに要約のトレーニングとして大意を把握したのち、和訳対策として1文ずつ日本語訳をしました。</p>	<p>* 『東大の英語25ヵ年』(教学社)を少しずつ解き始めました。要約から固めていき、1日1題を基本に進めました。</p>	<p>* センター試験の過去問と共に、『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を1日に小問1題のペースで解きました。</p>	<p>* 過去問を時間を計りながら解き、英作文は学校の先生に添削をお願いしました。</p>	<p>* 必要最低限の単語と文法は夏前に固めておきましょう。対策してすぐに結果が出る科目ではないため、長期的な学習スケジュールを立てることが重要です。</p>		

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文Ⅲ 86 (80)	* 空き時間に『DataBase5500』(桐原書店)を見ていました。1週間に1度は長文に触れていました。	* TEDというアプリでリスニング対策を始めました。単語は繰り返し見ました。長文のペースは変わらず。	* リスニング、単語、長文を同じペースで。	* リスニング対策を毎日するようになりました。単語よりも長文の比重を高くしました。	* リスニングは毎日取り組み、復習として以前読んだ長文の音読を始めました。	* 『Next Stage英文法・語法問題』(桐原書店)で文法の確認をし、追試の過去問を1年分解きました。	* 過去問を5年分週末に解き、空き時間に添削済みの英作文の復習をしたりリスニング対策をしていました。	* 高3になると社会など他の科目に時間がとられてしまうので、文法・単語は高3になる前のある程度固めておくべきです。	
理Ⅰ 83 (75)	* 高2の間は学校の定期試験対策に加え、『DUO3.0』(ICP)をシャドウイングして例文暗記をしていました。 * 高3春から『やっておきたい英語長文700』(河合出版)を1周し、音読・単語のピックアップをしていました。東大特進にも通い始めました。 * 5月から東進の「過去問演習講座」で過去問を解き始めました。	* 東大の過去問を始めました。 * 『システム英単語』(駿台出版)をシャドウイングしていました。 * 東大特進のテキストを復習していました。	* 東大の過去問10年分を一週し終わりました。 * 『システム英単語』(駿台文庫)をシャドウイングしていました。 * 東大特進のテキストを復習していました。	* 東大の過去問の2周目を始めました。 * 東大特進のテキストを復習していました。	* 東大特進のテキストを復習して、勘を鈍らせないようにしていました。	* センター試験過去問5年分を解き、よく出る発音・アクセントを確認しました。	* 東大本番レベル模試の過去問3回分を解きました。 * 東大特進のテキスト全てに目を通し、重要文法事項・問題を解くプロセス・英作文の表現などを最終確認しました。 * 東大特進の直前用リスニング教材で耳を慣らしました。	* 英語はとにかく積み重ねが重要な科目なので早期からコツコツやりましょう。 * ある程度完成して他の教科に力を入れたいときも、英語は少し離れていると勘が鈍ってしまうので、毎日30分程度でも触れるようにしましょう。	
理Ⅰ 75 (75)	* 『英語長文問題精講』(旺文社)の精読をし、問題を解いて内容を頭に入れた上で速読しました。 * 文法の問題集の数をこなしました。 * 『東大英単語熟語鉄壁』(角川学芸出版)を出来るだけ毎日、少しずつ目を通しました。夏休みが終わる頃には、8割以上覚えていました。					* センター模試を受けたり、過去問を解いたりしました。	* センター模試を受けたり、過去問を解いたりしました。	* 東大の過去問を赤本に収録されている7年分解きました。	* 単語を覚えているのといないのでは学習の効率が大きく変わってしまうので、出来るだけ早いうちから単語の暗記を進めるべきです。 * 東大では速読力も必要だということを意識しましょう。 * 英作文は積極的に添削してもらいましょう。
理Ⅰ 77 (70)	* 学校で与えられた課題を中心にしていたため、特に問題集は使いませんでした。		* 『東大英語総講義』(東進ブックス)を、東大型の問題を解いて疑問があったときに対応する部分を読みました。				* 『東大前期試験リスニング対策実戦問題集』(東進ハイスクール)で英語を聞く耳を衰えさせないようにしました。	* 長時間触れなければ力が衰えやすい教科なので、毎日勉強することが大切です。 * 問題集も良いですが、学校や東進の教材を全て無駄にせず使うべきです。	
理Ⅰ (65)	* 学校の授業以外は何もしていませんでした。	* 東大特進の宮崎尊先生の授業を受講していました。(直前期まで)	* 『東大英語の総合的研究』(旺文社)を1日2,3問ずつ解いていました。			* センターの過去問数年分と、学校で配付された予想問題を解きました。	* 東進の過去問演習講座を利用しました。 * 『東大前期試験リスニング対策実戦問題集』(東大特進)を使用しました。	* 東大独特の形式にいち早く慣れ、短時間でなるべく多くの英文を処理できるようになることに重点を置きました。	
理Ⅱ 62 (70)	* 『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)や『システム英単語』(駿台文庫)を利用して夏までに英単語を完璧にしました。 * 『東大の英語25ヵ年』(教学社)の昔の長文を利用して長文読解をしました。 * 『スクランブル英文法・語法』(旺文社)で熟語やアクセントを確認しました。	* 『東大の英語25ヵ年』(教学社)・『実戦模試演習』(駿台文庫)・『入試攻略問題集 東京大学英語2016』(河合出版)で演習を重ねました。				* センターの過去問や東進のセンター試験本番レベル模試の過去問をやりました。	* 再び『スクランブル英文法・語法』(旺文社)で熟語やアクセントを確認しました。	* 直近3年分の過去問と東大本番レベル模試3年分を時間配分に注意して解きました。	* 東大英語の一番の良問は過去問です。使いどころを誤らないようにしましょう。 * 文法は早めに仕上げましょう。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理Ⅱ 85	*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)を直前まで使い続けました。イラストや例文が多く、カテゴリーごとに分かれていますので使いやすいです。		* 東大の古い過去問で構成されたテキストを使用しました。 *『減点されない英作文』(学習研究社)は誤文例と解説、汎用性の高い例文がためになりました。			* 発音とアクセントを確認しました。	* 過去問を解きました。	* 単語は早くからコツコツやって、語彙を増やしておきましょう。	
理Ⅱ 76 (65)		*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)で単語数を増やし、『長文問題精講』(旺文社)と学校のテキストを使い長文を読み、『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)で英語を聞くということを毎日繰り返していました。毎日少しずつを継続すべきです。単語は分からなかったものをリストアップして持ち歩いています。		* 英作文の添削を学校の先生にしてもらいました。並び替えや英文補充の問題は東京外大に似た問題があるのでそれを解いていました。		* 過去問を解いて時間配分を決定していました。* 直前にも単語・リスニングは毎日やっていました。		* 英語に毎日触れ続けていれば、自然に英語を早く読めるようになると思います。 * 過去問を通じて問題に慣れることも大切です。	
理Ⅲ (65)		*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)や『Vintage』(教育出版社)の復習をしました。		* 赤本を使って過去問を解き始めました。要約から始めました。		* センター対策はしませんでした。	* 英作文とリスニングに集中的に取り組みました。3日に1回ほど120分セットで解きました。	* 英語は伸びるまでに時間がかかるので、出来るだけ早く仕上げたいと思います。	
理Ⅲ 90 (85)	* 塾で要約、英作文、リスニングを中心に演習をしていました。 * 単語はよく勉強していました。	* 東大の過去問を始め、東大模試の過去問で演習をしていました。各大問で10分ずつ解きました。	* 文法を確認し直しました。 * どの問題で得点すべきか意識しながら演習することで点が伸びました。	* 東大型の演習をしました。	* とにかく東大型の演習をしました。	*『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を用いて聞こえるまでやり直しました。	*『英作文の点数が面白いほどとれる本』を解き、知っている表現を用い、論理がとばないよう気を付けました。 * リスニングも毎日2時間ほどやりました。	* リスニングや英作文で安定して取れるようになれば、点数は伸びると思います。	
理Ⅲ (87)	*『システム英単語』(駿台文庫)と『英単語ターゲット1000』(旺文社)を使い、単語と熟語を覚えめました。	* 前述した2冊の復習をしました。	*『頻出英熟語問題1000』(桐原書店)を1周しました。		* センター対策として『UPGRADE英文法・語法問題』(数研出版)を繰り返し解きました。	* 単語帳・熟語帳・文法の参考書の復習をしました。	*『鉄緑会東大英単語熟語 鉄壁』(角川学芸出版)で語彙を強化し、『東大の英語25ヵ年』(教学社)で読解力を維持すると同時に、要約の復習をしました。	* 高2の終わりまでに多くの英文に触れて基本的な読解力をつけておき、その上で語彙力をつければかなり英語が得意になると思います。	帰国子女・英検1級 (高1)・TOEFL- iBT91点(高2)
理Ⅲ 95 (95)	*『ニュース英語のリスニング(初級)』(DHC)が速いリスニング練習を始めるのに最適です。					*『ニュース英語のリスニング(初級)』(DHC)を用いました。	* 過去問をひたすら解きました。	* リスニングはとても大切です。 * 毎日触れることが大切です。	
理Ⅲ 77 (75)						* センターの過去問を20年分、出来るだけ早く解きました。	* 直近の過去問を繰り返し解くと共に、数日に一度東大本番レベル模試の過去問を解き、新しい問題にもうろたえず素早く解く練習をしました。	* 最終的に到達すべき点、目標を定め必要十分量の勉強時間を確保しましょう。	
理Ⅲ 93 (98)		*『CNN English Express』(朝日出版社)を聞きました。リスニングは寝る前に30分毎日欠かさずやりました。				*『キムタツの東大英語リスニング』(アルク)を聞きました。	*『鉄緑会東大英語リスニング』(角川・中経出版)を聞きました。	* 英語の学習は簡単な語彙と例文暗記による基礎があって初めて可能になると思います。 * 英語は触れていないとすぐに力が落ちてしまうので、必ず毎日読み・聞きましょう。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項	
理Ⅰ 74 (50)	*『1対1対応の演習』(東京出版)	*『大学への数学』(東京出版)で気になった問題をチョイスして解いていました。		*『理系数学の良問プラチカ 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』(河合出版)		*『東大の数学25ヵ年』(教学社)				
理Ⅱ 90 (80)						*センター数学のスピードに慣れるため、過去問を片っ端から解いていきました。	*過去問を解きました。東大本番レベル模試の過去問、今まで解いた問題の解き直しもしました。			
理Ⅰ 79 (75)	*高2の間は学校の定期試験対策に加え、『FocusGold』(啓林館)のⅠA・ⅡBを解き、間違えた問題は反復していました。 *高3春から東大特進に通い始め、出来なかった問題を復習しました。		*東大の過去問1周目を始めました。「過去問演習講座」の解説を見て、解けなかった問題はノートにまとめました。	*東大特進で出来なかった問題を復習しました。 *東大の過去問10年分を1周し終えました。	*東大の過去問2周目を解きました。二度間違えた問題はしっかりとポイントを押さえ、次は解けるようにしました。	*センターの過去問や問題集を10回分解き、センターならではの時間の感覚をつかみました。	*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)で10年以上前のものを数年分解きました。 *東大本番レベル模試の過去問を3回分解きました。 *今までに間違えた問題のポイントをまとめたノートに目を通し、解法の最終確認をしました。	*夏を過ぎると理科が忙しくなり数学に時間をかけづらくなるので、ボリュームのある問題集は春のうちにやっておきましょう。 *触れないと鈍るので少しずつでも解きましょう。 *解けなかった問題は解法のポイントを自分なりにまとめ、模試前などに定期的に見返しましょう。		
理Ⅰ (75)			*『オリジナル数学演習ⅠAⅡB』(数研出版)・『オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ』(数研出版)が学校で使われていたため、1週間で20問ほど解き、定期試験前には総復習しました。	*『入試問題集 数学』(数研出版)のⅠAⅡB・Ⅲから苦手分野やつまづきそうな問題を選んで解きました。	*『東大の数学25ヵ年』(教学社)のレベルABの問題を解きました。 *『オリジナル数学演習ⅠAⅡB』(数研出版)・『オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ』(数研出版)を再び1周しました。	*センター模試を受験したり予想問題を解くことで、時間配分の失敗をしないように練習しました。	*『東大の数学25ヵ年』(教学社)と『東大数学で1点でも多く取る方法』(東京出版)の異なる解法・書き方を比べながら、まだ解いていない問題を中心に解きました。	*数学ⅠAⅡBは夏休み前までに標準レベルの問題を解けるようにし、夏休み～秋には過去問演習をしておきたいです。 *数学Ⅲも夏休み終わりまでには標準問題を解けるようにしましょう。 *過去問と似た考え方をすると問題が出題されることもあるため、過去問は『25ヵ年』掲載分を少なくとも1周すると良いと思います。		
理Ⅰ 72 (65)							*センターボケを直し、数学に毎日触れるため『入試問題集 数学』(数研出版)のⅠAⅡB・Ⅲに取り組みました。	*学校の課題が大切です。基礎レベルの演習を積み、実力をつけた上で過去問に取り組みましょう。		
理Ⅰ 65 (65)	*学校の授業で扱う問題の予習・復習がほとんどでした。		*『新数学演習』(東京出版)の問題をほぼ毎日2～4問ずつ解いていました。	*学校の予習・復習に加え、『新数学演習』を解いていました。	*学校で配付された数学Ⅲの問題集を用いて演習を行いました。		*『過去問演習講座』や『東大理系数学25ヵ年』(教学社)を使って過去問の演習・復習を徹底しておこないました。	*どんな形であれ、ほぼ毎日数学に触れておくべきです。		
理Ⅱ 62 (70)	*『1対1対応の演習』(東京出版)を仕上げました。基礎的な内容はあらかじめ固めておきましょう。		*『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)をAから難易度順に解きました。直近3年分はやらずに取っておきました。		*東京理科大・慶應大・早稲田大理工の過去問を順に8割以上取れるまで続けました。	*センターの過去問を重点的に行いつつ、二次対策も1日に2、3題はこなしておきました。	*センターの過去問を毎日満点取れるまで行いました。	*定番の問題の再確認をしました。 *直近5年分の過去問と東大本番レベル模試の過去問を解きました。	*問題の取捨選択が重要です。実戦に早めに慣れましょう。 *過去問を解く時は時間をちゃんと計りましょう。	
理Ⅱ 40			*『サクシード数学』(数研出版)学校の授業進度に合わせて進めました。	*『サクシード数学Ⅲ』(数研出版)でそれまでに間違えたところを解き直しました。					*解法のパターンを頭に入れていきましょう。	
			*東大・東工大・早稲田・慶應などの過去問で構成されたテキストを進めました。							
理Ⅱ 76 (65)	*『新数学スタンダード演習』(東京出版)を解いて、基礎的な問題を確実に解けるようにしました。	*『新数学スタンダード演習』(東京出版)を完成させました。東京大学の過去問を1年分解いて、自分の進捗状況を確認しました。	*もう1段階難しい問題をとて、『やさしい理系数学』(河合出版)を一通り終えました。 *この頃から東大の過去問をテーマ別に始めました(直近10年は除く)。	*この頃には、いわゆる点取問題がある程度とれるようになっていたので、『新数学演習』(東京出版)を用いて、確率・微積分の分野に絞り、学習していました。 *東進の過去問演習講座を用いて実戦的な訓練もしました。	*今までで解けなかった問題を復習しつつ、『東大数学で1点でも多く取る方法』(東京出版)を用いて、解法の研究や部分点の取り方を考えていました。 *冬休み～二次にかけて、東大特進の志田先生の「東大数学」を受講しました。	*センター試験本番レベル模試等の復習をしながら、東大の過去問を解いていました。	*『東大数学で1点でも多く取る方法』(東京出版)を使って、定石を確認していました。計算力が落ちないように、微積分の問題は最低でも1日1題解いていました。	*早めに基礎を固めて取れる問題を見極める力とそれを正確に処理する力を養うことが必要だと思います。あまり難しい問題ばかりやるのは得策ではないと思います。		

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
理Ⅲ (85)	* 『Focus Gold』(啓林館)の数Ⅲを進めると同時に、I A II Bの復習をしました。			* 過去問を解き始めました。過去問は1年分ずつ、時間を計って解きました。『鉄緑会東大数学問題集』(角川学芸出版)を使いました。		* センター対策はしませんでした(東大受験者ならば他のことをした方が賢明だと思います。)		* 基本的な解法を組み合わせること、ほとんどの問題は解けるようになります。基本ができていないうちから、応用問題ばかりを解くというよりはやめたほうが良いと思います。	* 数学オリピックで予選通過しました(本選で落ちました)。
理Ⅲ 90 (80)	* 基本的な実力をつけるため、青チャートで演習をしていました。	* ひたすら演習をしました。『新数学演習』(東京出版)、『大学への数学』(東京出版)などを使用しました。	* 『東大への理系数学25ヵ年』(教学社)をやりました。まとまった時間が取れる夏休みに、自信のある人は取り組むと良いと思います。	* 東大模試の過去問(河合・駿台・代ゼミ)を150分かけてこなしました。		* センターの勉強はほとんどしていません。二次の過去問の解き直しを行いました。時間内で得点を最大化するために、時間を意識して演習をしました。	* 二次の過去問の解き直しを行いました。『大学への数学』(東京出版)の学力コンテストや大数模試といったコーナーで演習をしていました。	* 1問1問しっかりと自分で考えていくことが大事です！直前期になったら、目標点を明確に意識し、捨てるという勇気を持つことも、満点を狙う人でなければ考えるべき作戦の1つだと思います。	
理Ⅲ (87)	* 『1対1対応の演習』(東京出版)の微積分の範囲を進めつつ、I A II Bの範囲を復習しました。	* 『新課程チャート式 基礎からの数学』(数研出版)をざっと全範囲復習し、「～5月」の欄に書いた「1対1」を終わらせました。	* 『やさしい理系数学』(河合出版)を1周しました。	* 東大の過去問を週に1回解きました。 * 分野別対策として『解法の探求・確率』(東京出版)『解法の探求・微積分』(東京出版)また、『入試数学の掌握 総論編』(エール出版社)を解きました。	* 『ハイレベル理系数学』(河合出版)を気が向いたときに解きました。		* 過去問を解いて『東大数学で1点でも多く取る方法』(東京出版)を読みました。その後は『東京大学への数学』(駿台文庫)『入試攻略問題集 東京大学数学』(河合出版)を使って、演習を積みました。	* 基礎を固めて、標準的な問題を確実に取れるようにすることが、数学がそれほど得意ではない人にとっては1番の近道だと思います。	
理Ⅲ 100 (95)	* 一通りテーマの確認をしました。	* 実力が下がらないよう、毎週6問セットを解きました。				* 『センター試験過去問研究 数学』(教学社)を少しやり、形式に慣れておきました。	* 『東大の理系数学25ヵ年』(教学社)をやりました。	* 早いうち(できれば高2中)に通終えることが重要だと思います。	
理Ⅲ 81 (95)	* 学校の先生のオリジナルテキストの問題を解きこみ、全ての問題を解けるようにしました。他塾で1週間に一度、6問150分のテストを受けました。これは秋に学校の授業が無くなるまで継続しました。			* 学校の授業がなくなると、ほぼ1日に1回、6問150分のテストを自分で行いました。		* センターの過去問を5年分のみ解きました。二次型の問題は1回に少なくとも1問、通常は3問解きました。	* 6問150分のテストを解きまくり、センター近くに低下した勘のようなものをもとに戻しました。	* 解いた問題は全てカテゴリ別に頭にインプットし、解法を複数思いつけるまで特訓しました。	
理Ⅲ 100 (103)	* スピードを養えるように演習は量をこなしていました。『大学への数学』『1対1対応の演習』(ともに東京出版)などを使っていました。			* 過去問は11月ごろから始めました。	* 過去問を1セット/週のペースで解きました。友達と答案を見せ合ってお互いに採点し、論理の穴を見つけられるようになればもう心配することはないと思います。			* 数学はどうしても波があるので、数学に頼りすぎにならないような皮算用をしましょう。ミス無くすように日頃から意識をしておけばミスは減らしていけるので、つねにミスには気を付けましょう。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I 32 (35)			*『新・スタンダード演習』(東京出版)・過去問10年分を解きました。	*『東大の数学25ヵ年』(教学社)を解きました。			* 東大模試過去問・東大入試実戦演習・東大本番レベル模試過去問を解きました。		
文 I (80)	* 基本的に塾の教材を解いてその復習を行っていました。東大の過去問が中心でした。		* 東大特進の教材が家に届いたらそれを消化していました。			* 簡単な計算問題を解いていました。	* 様々な解説が載っている参考書を読んで確認していました。 * 東進の過去の東大模試を解きました。これが非常に役に立ちました。	* 高2の段階で数学は合格可能な域に達して、分からないところだけを復習していれば十分でした。	
文 II (30)	* 解法暗記が高2終了時に終わっていたので『文系数学の良問プラチカ数学1・A・2・B』(河合出版)をやりました。	『東大の数学25ヵ年』(教学社)のAB問題を1日に1・2題解いた。	* 夏休み前と同様です。	* 夏の模試がイマイチの出来だったため、ウェイトを上げました。	センター演習を行いました。 (I Aは10年、II Bは20年) 1Aは特に時間不足にはならなかったため10年やり、2Bは時間がいつも足りなかったため20年やった。1Aは過去問と形式が違うので注意してください。		* 直近の過去問セットを2周しました。	* 程々にやりましょう。 * 苦手な方です。	
文 III (40)	* いろいろなことがあやふやだったので、春ごろまでにすでに1、2周してあった青チャートをもう1回まわしました(別売りの専用ノートを使いました)。 * 『1対1対応の演習』(東京出版)を買って、問題をコピーして1問ごとにノートにそれぞれ1ページ使って貼り、解き始めました。	* 『一対一対応の演習』を進め、数 II Bをだいたい1周させました。塾の教材を用いて難しめの問題にも取り組みました。	* 『1対1対応の演習』を完全に一周させました。もう1回同じようにノートを作り、2周目にも少しずつ突入しました。 * 塾の教材はこのころは難しすぎたので、あまり重きを置きませんでした。	* 『1対1対応の演習』を少ぼぼちやりました。 * 塾でテスト形式の演習が始まったので、それを活用してよくなっていない対称式や逆像法のマスターを試みました。 * センター過去問がポロポロで焦りました。	* 『1対1対応の演習』を少しずつやりながら、テスト形式の演習で取り扱った問題をすべてもう一度解きました。 * だいたい1日1年分センターの過去問やセンターに似せた各予備校のパックを解きました。	* とにかくセンターの勉強をしました。時間に間に合わせることに至上命題でした。 * アナログ時計をセンター数学の始まる時刻に合わせて演習を行い、針の位置で時間を覚えるようにしました。 * データの分析がネックだったので、よく見直しました。	* 『1対1対応の演習』はすでにおおよそ2周してあったので、重要そうな分野(軌跡や確率、漸化式など)のみもう一度軽くさらいました。テストゼミはもう一周しました。 * 『東大数学で1点でも多くとる方法』(東京出版)と『東大の数学25ヵ年』(教学社)を用いて年度毎、分野毎に過去問演習を10年分弱ほど行いました。演習の時計は本番に合わせてました。		
文 I 64 (60)	* 『1対1対応の演習』(東京出版)・・・とりあえず1周し、定石を確認しました。 * 『新数学スタンダード演習』(東京出版)・・・『1対1対応の演習』のあと、実践的な演習を積むために使いました。	* 『新スタンダード演習』(東京出版)・・・夏休みまでに1周目を終わらせました。 * 『鉄緑会 東大数学問題集』(角川学芸出版)・・・夏休み前に1.2年分解いてみました。	* 『1対1対応の演習』(東京出版)・・・1周目に間違えた問題を解き直しました。 * 『鉄緑会 東大数学問題集』(角川学芸出版)・・・夏休み中に10年分を終わらせました。	* 『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・11月中には1周しました。 * 『新スタンダード演習』(東京出版)・・・1周目に間違えた問題を解き直しました。	* 『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・二次の勘を鈍らせないために、3日に1度、3～4問解いていました(2周目として)。	* 過去問を解いていました。 * 『大学入試センター試験実戦問題集 I・A/II・B』(駿台文庫)・・・センター対策として解きました。	* 『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・解けなかった問題を繰り返し解いていました。 * 東進の過去の東大本番レベル模試の問題を実戦用に解いていました。	* 夏までに定石を身に付けるととても楽です。あとは本番まで勘を鈍らせないように、4問100分で解く練習を定期的にすると思います。	
文 I 41 (40)	* 塾の教材で解法暗記を行いました。		* 『文系数学の良問プラチカ数学 I・A・II・B』(河合出版)を1日3問ずつやりました。1分野終わるごとに復習をしました。	* 『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)を1日1～2題ずつ解きました。	* センター対策のみ。II Bが苦手だったので1日1年分ずつ解きました。東大数学には触れていません。		* 東大模試の過去問などで2日で1年分演習。必ず数学に毎日触れることを心がけました。	* とにかく毎日数学に触れるのが大切だと思います。	
文 I 59 (60)		* 東進の『東大対策数学 I A II B～中級から上級そして超上級へ～』を1学期と夏期のテキストを中心にくり返しやりました。		* 多くの問題を解くことに走りましたが、学習効果は薄かったと思います。		* センター過去問は2,3年分やりました。	* 東大の過去問は10年分を徹底研究しました。	* どの教科でもいえることですが、他教科との兼ね合いを考えましょう。分からない問題を長時間考え続けることは、数学の強化に大いに資すると思いますが、僕はそれに時間を取り過ぎました。数学一強構想は不安定である場合が多く、また直前期のメンタル的にも自分をいじめることになると思います。ただ、数学をしっかりやることで、その能力が他の教科でも有効に働くようになることはあると思います。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I 49 (50)	*『文系の数学—実戦力向上編—』(河合出版)・・・例題を1日5題行いました。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・1日平均2題ほど解きました。 *『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)・・・1日1題を目安に解きました。		*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・1日に平均2題ほど解きました。 *『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)・・・1日に2題とききました。		*センター型の問題集・・・1日につきI・A、II・Bを1セットずつ解きました。	*冠模試などの東大型の問題の過去問を解きました。	*数学が苦手な人は、多くの問題集をこなしたりするよりも、数冊に絞ってその参考書を何周もする方が良いと思います。	
文 I 70	*『大学への数学』(東京出版)を購読し、ややハイレベルな問題にも取り組むことで、思考力と選球眼を同時に養いました。		*夏の模試に向けて模試過去問を時間を測って解く実践的訓練を複数回行いました。	*『上級問題精講』(旺文社)を用いて問題のインプットを行いつづけました。			*『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)を用いて徹底的に過去問を研究しました。この時、自分で狙われそうなパターンをいくつか想定しておいたことで、二次試験にも安心して臨むことができました。	*東大の文系数学は、過去問と同じような問題がかなりの頻度で出題されるので、まず第一に優先すべきは過去問研究です。また、例年1問は極端に方針を立てることが容易な問題が出るので、そうした問題を確実に取れるだけの計算力をつけましょう。オススメの題材は時間短縮版のセンター試験数学過去問です。	
文 I 80 (68)	*『大学への数学 新数学演習』(東京出版)・・・気が向いたときに解き進めると感じて、問題演習を行っていました。	*特に何もしていません。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・8月末から、時間を計って過去問を解き進めました。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)・・・9月ごろまでに過去問のうちこの本にあるものは全てやりました。 *『大学への数学 新数学演習』(東京出版)・・・気が向いたときに難易度の高いものを選び解いていました。	*twitterやネット上で過去問やその他良問を探し、解いていました。 *『大学への数学 新数学演習』(東京出版)・・・気が向いたときに難易度の高いものを選び解いていました。		*ネット上で古い過去問を探し、解いていました。	*コンスタントに数学の問題を解くことが重要だと思います。数学をしなかった時期には、力が著しく落ちました。	*数学甲子園に参加しました。
文 I 68	*『1対1対応の演習』(東京出版)を解いていました。	*『1対1対応の演習』(東京出版)の復習をしていました。 *『文系数学の良問プラチカ数学I・A・II・B』(河合出版)を解き始めました。	*『文系数学の良問プラチカ数学I・A・II・B』(河合出版)を解いていました。	*東大の過去問を解き始めました。(過去問演習講座にて添削を受けました。)この時期に『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)の問題をほとんど消化しました。	*東大でよくでる分野的に絞って過去問の復習をしつつ、『鉄緑会東大数学問題集』(角川学芸出版)で30年分の過去問を解きました。	*東大対策はやめて、センター対策のみ行った結果、数学ができなくなりました。	*センターII Bの失敗の原因を追究したところ、基本の抜けに問題があることに気づき、『チャート式基礎からの数学(青チャート)』(数研出版)にまで戻り、高3で解いた問題集を総復習したところ、数学が安定しました。		
文 II 52 (40)	*学校行事が忙しく、『1対1対応の演習』(東京出版)を2・3周して基礎的解法の習得を図りました。	*週1回過去問演習を行い、その復習をしました。			*『センター試験過去問研究 数学I・A/II・B』(教学社)、センター模試の過去問を購入し、ひたすらこなしました。		*過去問で間違えた所を解き直しました。	*多くの問題にあたることも大切ですが、1つの問題をきっちり解けることもそれ以上に大切だと思います。センター数学は苦手な人はとことん苦手なので早めにやっておくといいと思います。	
文 II 51 (50)			*東大模試の過去問を数セット解きましたが、それ以外は特に何もしていませんでした。	*この時期も学校の授業に取り組む以外は特に何もしていませんでした。	*数学力が落ちないように、東大模試の過去問や、赤本の問題を定期的に解きました。	*センター数学対策として『センター試験過去問研究 数学I・A/II・B』(教学社)の問題をたくさん解きました。しかし古い時代のものにも手を出したのはあまりよくなかったなと思います。	*東大模試の過去問、そして『東大数学で1点でも多く取る方法 文系編』(東京出版)を利用し、実践的な答案の書き方をマスターしようとしていました。	*数学が得意だと有利ですが、出来のムラが大きい科目でもあります。数学に時間を割きすぎるのはリスクが高いです。全体とのバランスを考えましょう。	
文 II 65 (60)	*『大学への数学』(東京出版)を一通り解きました。	*『スタンダード数学演習1・2・A・B受験編』(数研出版)		*『大学への数学』(東京出版)を、苦手な分野だけ解きました。		*過去問を解いていました。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)を、苦手分野を解きました。	*1日1題解くことが大切です。怠れば怠るほど勤が鈍くなったり、大丈夫だと思っても突然スランプに落ちたりします。苦手な分野は解法のパターンを覚えた方が良いでしょう。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文Ⅱ 45 (30)		*学校の授業で東大・京大・一橋の過去問を扱っていたので、その予習・復習のみを行いました。			*4題100分で過去問を解き始めました。	*センター試験対策に一本化。時間設定を短めにし、本番を想定した演習を行いました。	*3日に1年分くらいのペースで過去問を解きつつ、学校で他大の過去問等を解きました。	*とにかく基礎を固めること。ひらめきや根気で解くだけでは本番で痛い目に合います(実際に私がそうでした)。	
文Ⅲ 46 (40)	*青チャートで総復習をしました。	*過去問を1回解き、傾向をつかみました。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)のA・Bレベルの問題を1日に2題ずつ解き始めました。		*センターの過去問を2日毎に1年分解き始めました。二次の過去問は解いていませんでした。	*傾向が変わる前までの本試を解き終わったので、追試の問題を時間内に解く練習をしました。	*『東大の文系数学25ヵ年』(教学社)A・Bレベルの問題を頻出分野に限りくり返し解き、パターンをつかみました。		

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理Ⅰ 49 (40)			* 林修先生の授業					
理Ⅱ 41	* 林修先生の授業			* 古文の単語集を少しずつ読み始めました。	* センター国語の過去問を、25年分解きました。		* 過去問をひたすら解きました。	
理Ⅰ 58 (50)		* ~高2...学校の定期試験対策 * 高3春...林修先生の東大現代文に通い、点が取れなかった問題は解答作成プロセスを再度たどり確認するようにしました。				* センターの過去問を5年分やりました。 * センター漢文解法マニュアル(ブックマン社)を2周解きました。	* 林修先生の授業で扱った問題と解答に一通り目を通しました。 * 東大本番レベル模試の過去問を2回分解きました。	* 現代文は林修先生の授業の復習で十分です。 * 古漢も東大の古漢はあまり細かい知識は要らず読めればよいので、学校の試験対策などをこなしておくようにしましょう。
理Ⅰ 35	* 『読んで見て覚える重要古文単語315』(桐原書店)...夏休みまでに大体終え、9月以降は確認のために使いました。 * 『漢文学習必携』(京都書房)...句形の確認や、意味の多い漢字などの確認の為に一年を通して使いました。		* 東大特進の授業とその復習の他は、国語に触れませんでした。	* 古文・漢文については夏休み前まで同様のことを続けました。現代文は東大特進の授業を受けるほかには特に何もしていませんでした。	* センター試験の過去問を20回分ほど解きました。		* 古文・漢文は、7年分の過去問を解きました。 * 現代文は2000年以降の過去問を解き直し、東大特進で配られた解答を参考に復習しました。	* 現代文は東大特進の授業を活用し、計画的にセンターや二次試験の過去問を解けば問題ないと思います。 * 古文は単語と文法、漢文は基本的な字の意味・読みと句形を早いうちに固めましょう。学校で扱う古文・漢文を勉強に利用しました。
理Ⅰ 43 (20)		* 学校で与えられていた課題(出典不明)を中心にやっていたため、特に問題集は使いませんでした。				『完成古文単語321-イメージで覚える-』(尚文出版)この時期から受験直前まで、時間があれば見るようにしていました。		古文・漢文は現代文に比べ得点が安定し、高得点も期待できる科目。古典文法・古文単語・漢文の句形をマスターすることが大切。
理Ⅰ 40 (45)	* 東進衛星予備校で現代文の授業を受講しました。古文・漢文は何もしていません。	* 東大特進の林先生の現代文の授業を受講しました。	* 特に何もしていません。	* 東大特進の現代文を受講した以外は特に何もしていません。	* 東大特進で現代文・古典の授業を取りました。 * センター過去問の演習に着手しました。	* センター過去問数年分を解きました。	* 東進の過去問演習講座を活用しました。 * 合わせて、現代文はそれまでの東大特進の授業のプリントを用いて過去問の復習をしました。	* 古文の文法、漢文の句法は早いうちにマスターしておく、他の科目により多くの時間をかけることができ、良いと思います(単語は直前でもいい)。
理Ⅱ 42 (40)	* 『きめる!センター漢文』(学研教育出版)を用い、漢文の基本表現は完璧にしておきました。		* 『漢文道場 入門から実戦まで』(Z会出版)をやりました。	* 『鉄緑会東大古典問題集』(角川学芸出版)で過去問演習を行いました。	* 170点以上、評論満点を目標にセンターの過去問演習を行いました。	* 古文単語を再確認しました。 * 漢文の典型的な漢字の意味を確認しました。 * 二次にもつながることを行いました。	* 直近3年分の過去問と東進東大本番レベル模試の過去問を解きました。	* 現代文は林修先生の授業をアクティブに受けていけば問題ないでしょう。 * 東大の古典は他大に比べれば難問ということはないので得点源にしましょう。
理Ⅱ 46	* 古文単語集 何種類か持っていたので順番に全てやりました。		* 現代文は林修先生の東大特進の授業の他には特に取り組んでいません。			* 漢文の用語集		* 林修先生の授業を聞いて、理解しきることが大切だと思います。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理Ⅱ 34 (35)	*『実戦トレーニング古文単語』(中央図書)と『やさしく詳しい古典文法』(尚文出版)で古文の基礎を固めました。漢文は学校で与えられた教材をこなす程度でした。現代文は林修先生の授業以外には特に何もしていません。		* 夏期集中講座で集中的に現代文を学習しました。そのことによって、全科目内での現代文の位置づけがうまくできてよかったです。	* 理科で忙しかったため、ほとんど何もしていませんでした。	* 現代文に関しては、センターの過去問を使ってリハビリをし、古典は単語・文法を確認しながらセンターの過去問を解きました。		* 過去問を使った演習をしました。	* 国語で点数を安定させるには、古典を固めるのが一番だったと思います。現代文をあきらめて、古典に本気を出すのも戦略の一つです。
理Ⅲ (65)			* 林修先生の授業を1年間受講しました。現代文はこれだけです。		* センターの過去問を解き始めました。	* 古文単語や漢文の句法を覚えめました。		* 現代文は林修先生に任せておけば大丈夫だと思います。
理Ⅲ 31 (40)		* 林修先生の授業とその復習以外特に何もやっていません。				*『漢文 句形とキーワード』(Z会出版)や『実戦トレーニング古文単語』(中央図書)などを用いてセンター向けに古文単語や漢文の句法などを覚えめました。 * センターの過去問を解きました。	*『鉄緑会 東大古典問題集』(角川学芸出版)を使って古文は過去問演習を10年分やりました。	* 現代文は全体を通じて東大特進の林修先生の授業以外には何もしていません。
理Ⅲ (41)	*『マドンナ古文単語230 パワーアップ版』(学研マーケティング)を使って単語を覚えめました。	* 林修先生のテキストの予習をしました。			*『センター試験必勝マニュアル 古文』『センター試験必勝マニュアル 漢文』(東京出版)を使って、文法知識をつけました。	*「冬休み」の欄に書いた参考書の復習をしながら、センターの過去問を15分程解いた。	* 林修先生のテキストの復習をして、直前集中講座を受講しました。古典の過去問を2年分解きました。	* 他科目との兼ね合いに注意しながらできる範囲で学習を進めておくといいと思います。特に古漢の文法・単語などは計画的に覚えておくべきです。
理Ⅲ 47 (50)		* 林修先生の授業を受講していました。これだけで十分だと思います。			*『実戦トレーニング 古文単語』(中央図書)を使って古文単語を復習しました。		*『センター試験過去問研究 国語』(教学社)・・・センター国語はやる分だけ上がるので、過去問は全てやりました。	* 林修先生の授業の復習を行いました。 * 林修先生が至上了。
理Ⅲ 51 (35)	* 5月に学校で行われた全国統一テストに向け、持っていた古文単語帳を丸暗記しました。		* 模試直前に少し単語を覚え直しました。また、林修先生の授業に出席しました。			* 古文を覚え直し、漢文の句形を最低限覚えめました。現代文はセンター型の問題を10年分程解きました。	* 二次型の古文・漢文を約1日に1回解き、随時不足していた単語を記憶しました。	* 最短時間で効率よく点を上げる方法を頭で考えることが重要です。
理Ⅲ 48 (52)	*『読んで見て覚える重要古文単語 315』(桐原書店)		*『わかる・読める・解ける key&古文単語330』(いいずな書店)		* センターの過去問を1日1～2セット解きました。		*『鉄緑会 東大古典問題集』(角川学芸出版)を使いました。	* 古文単語・漢文の句形をしっかりとマスターすれば、ある程度の点数は必ずついてきます。現代文は設問の要求と問題のタイプに合わせてしっかり答えられるようになれば伸びます。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I (55)	* 基本的に古典ばかりを勉強していました。現代文を疎かにしたことが悔やまれます。	週1回の塾の古典の授業での演習と東大特進での古典の授業の受講	* 古典の勉強は主に東大特進の教材を熟読することでした。 * この時期の現代文の成績は悪くはありませんでした。			* ひたすら過去問をやっていました。	* 1月の模試で現代文が壊滅し、焦って東進の授業の復習および問題集を買って解いたりしていました。 * どうにかなったかは分かりませんが、他科目に余裕があったので勉強する時間が取れました。	* コツコツやるのが大事ですね(経験談)	
文 II (60)	* 現代文……何もしてませんでした。 * 古典……古文は単語を『マドンナ古文単語230』(学研)で声に出して覚えました。漢文は『早覚え速答法』(学研)で句法を叩き込みました。	* 現代文……何もしてませんでした。 * 古典……古典は『古文上達』(Z会)、漢文は『漢文道場』(Z会)で量をこなしました。終わった問題は10回音読しました。	* 現代文……林修先生の夏期集中講座を受講しました。 * 古典……『東大の国語25ヵ年』や他塾の過去問題集を利用して、少しずつ過去問を開始しました。	* 夏模試で古典でしっかり点が取れていたため、古典は過去問を継続しました。		* センター演習をしました(古典20年分、現代文10年分)。 * 古典は二次にもつながらるのでしっかりやりました。	* センター演習	* セットで直近10年の過去問を解きました。 * 古典は『東大の国語25ヵ年』をもう一周しました。	* 古典でしっかり点を取りましょう。
文 III	* 古文単語は学校の小テストのみでした。 * かなり古漢の厳しい学校だったので、それで学習をすすめていました。おかげで文法はあまり困りませんでしたが、一応季節講習などで確認していました。 * 現代文は林修先生の授業を受け、ざっと復習するだけでした。	* 古漢の過去問を少しずつ解いていました。	* 林修先生とステキな3日間でした。	* 学校でもらった『新明説漢文』(尚文出版)を眺めていました。 * 古文はようやく単語をやる気になり、『565(ゴロゴ)』(スタディーカンパニー)をどんどん進めました。		* センター過去問に手をつけ、よくわかっていないところや、怪しいところをカバーしました。怪しいのはほぼ古文単語と漢文句形だったので、秋と同じような学習をしました。でもあまりやりませんでした。	* 過去問少しと単語の最終確認のみでした。	* 過去問や模試の過去問で演習しました。	
文 I 75 (60)	* 『古文上達 読解と演習56』(Z会出版)……1周だけしました。 * 『漢文道場』(Z会出版)……この時期に1周目を行いました。	* 『読み解き古文単語』(Z会出版)……語彙力の強化のために使いました。文章を読みながら単語を覚える形式なので、記憶に残りやすいと思います。入試本番にも持って行ったオススメの1冊です。	* 『漢文道場』(Z会出版)……間違えた問題を中心に2周目を行いました。	* 『鉄緑会 東大古典問題集』(角川学芸出版)……直前期まで、2～3週に1年分を目安として解き進めました。				* 現代文は林修先生の授業を東大特進で受けていれば、過去問をこなしつつ実力もつくので良いと思います。 * 古典は早い時期に文法や単語を一通りやって、定期的に演習を積むようにすれば、安定して点数が取れるはずですよ。	* 東進ハイスクールで、林修先生の「現代文 記述論述トレーニング」を受講していました。
文 I 67 (60)		* 林修先生の現代文の予習・復習のみ。		* 『鉄緑会 東大古典問題集』(角川学芸出版)で直近4年分以外を演習しました。		* センター試験の過去問のみ。古典についてはセンター模試の過去問も解きました。		* 東大現代文の2013～2015年度の問題を解き直しました。 * 『東大の古典25ヵ年』(教学社)で古文・漢文を1日1題ずつやりました。	* 現代文は予習が大事です！
文 I 77 (75)			* 古文と漢文をかなり勉強しました。使用参考書は『鉄緑会 東大古典問題集』(角川学芸出版)です。 * 高2のときから、林修先生の授業を受講していました。			* 今まで受けっぱなしだった林修先生の授業を復習し始めましたが、時すでに遅し、最後までバツとませんでした。	* センター国語は、古典は『センター試験過去問研究 国語』(教学社)収録分、現代文は2000年までやりました。現代文はただ解くだけでなく、文章の構造的な理解に努めました。学習効果はあったかと思えます。	* 現代文だけでなく古典でも「解答のリズム」を作ることを目指しました。	* 解答を(苦しくても)自分で何度も書いて復習することが有効だと直前期に思いました。
文 I 68 (60)	* 『最強の漢文』(Z会出版)の問題編を使用しました。	* 『最強の漢文』(Z会出版)の章末付録で句形を暗記しました。	* センター国語を1日2題こなしました。				* 『最強の漢文』(Z会出版)の章末付録を利用していました。		* 現代文は東大特進コースでの授業以外は何もしていません。国語は元々古漢が得意だったので、それほど多くのことはしませんでした。
									* 『必修古文単語735』(三省堂)を1日10p、受験終了まで続けました。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I 74							<ul style="list-style-type: none"> *『漆原慎太郎の 古文・記述問題が面白いほどとけるスペシャルレクチャー』(中経出版)。これは最もお勧めの本。最高の東大古文対策書だと思います。 *『東大の古典25ヵ年』(数学社) 	<ul style="list-style-type: none"> * 現代文はあまりこだわりすぎないことです。林修先生の授業+α程度に留めておくのが最もコストパフォーマンスが良いと思います。 * 古典はセンター試験満点を一つの指標として知識を蓄えることが最優先です。あとは現代文の解答手法を応用して過去問演習をすれば良いと思います。 	
文 I 68 (55)							<ul style="list-style-type: none"> *『鉄緑会東大古典問題集』(角川学芸出版)。古典の過去問と解説が載っているため、それらの演習を時間を計って行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 過去問が何よりの教材だと思います。ただ、過去問は数が少ないため、1つ1つの題材から少しでも多くのことを読み取れるよう文章と向き合うことが必要だと思います。 	
文 I 67							<ul style="list-style-type: none"> * 現代文に関しては東大特進で扱った過去問を数問解き直しました。 * 古文、漢文は過去問10年分を2周し、使えそうな知識や良く間違える文法をノートにまとめました。 		
文 I 74 (55)							<ul style="list-style-type: none"> * 前日に古文過去問25年分を解きました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 古典は句形、文法事項を覚えたら、イメージしながら解くと良いと思います。現代文は林修先生についていくといいと思います。 	
文 II 58 (65)							<ul style="list-style-type: none"> * 現代文はセンター過去問を本試・追試両方ともたくさん解きました。 * 古典は追試を活用しました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 現代文は林先生の授業を真剣に受けましょう。 * 古典は『鉄緑会東大古典問題集』(角川学芸出版)に早期から触れておくことをおすすめします。 	
文 II 73 (80)							<ul style="list-style-type: none"> *『二刀流古文単語634』(旺文社)。1周してから苦手な単語を何周も確認しました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 古文・漢文の文法要項は早いうちに頭に入れておくこと。東大は(特に漢文)単語がすごく難しいという印象はないので、出来るだけ多くの文章を読み、古文・漢文の読解力を養うべきです。 	
文 II 83 (75)							<ul style="list-style-type: none"> * センター試験の過去問を本試験を中心に10年分程解きました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 過去問の復習を行い、2000年以降の全てのものに目を通しました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 現代文は自分の“くせ”によって解きがちなので、信頼できる人に添削をしてもらい、解き方自体を見直すのが良いです。 * 古典は、古文単語などの基礎事項が固まっていればそれほど難しくはないため、分からない単語や句法に出会ったら、その都度調べる習慣をつけると良いと思います。
文 III 71 (50)							<ul style="list-style-type: none"> * 3年分過去問を解きました。 	<ul style="list-style-type: none"> * 林修先生の授業の復習をし、答案の作り方を再確認しました。 	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理 I 41 (40)		* 苑田尚之先生の講義		* 『東大の物理25カ年』(教学社)	* 『理論物理への道標』(河合出版)	* 模試の過去問	* 苑田尚之先生のテキストの復習	* 演習を積むのも良いですが、基礎を正確に押さえることを最優先にしましょう！
理 II 45	* 色々な大学の過去問を、1日2～3題ほど解きました。		* 今まで解いた問題の直しをしました。		* 苑田尚之先生の講義内容の復習。	* センター問題集を買って対策。	* 模試のものも含め、過去問を解きました。	
理 I 44 (45)	* 『新・物理入門』(駿台文庫)を読み、『新・物理入門問題演習』(駿台文庫)を解きました。間違えた問題は解けるまで反復しました。		* 過去問演習講座で過去問を解き解説を見て復習しました。			* センターの過去問5年分を解きました。 * 『大学入試センター試験実戦問題集物理』(駿台文庫)を1周解きました。	* 今までの東大物理のテキストの問題を全て解き、間違えた問題は解けるまで反復しました。 * 東大本番レベル模試の過去問5回分を解きました。	* 物理はきちんと理解して進めようとする直前に短期間で完成させるのは難しいので早めに進めておくことです。
理 I (40)	* 『体系物理』(数学社)。高2の間から、学校で扱った内容の復習のために使いました。		* 『物理重要問題集』(数研出版)、『名問の森』を解いていて不安に感じた分野を解きました。			* センター試験の本試・追試の過去問を旧過程の分を中心に30回分程解きました。	* 過去問を7年分解きました。また、学校で配られた問題を1日2, 3問解いていました。	* どの分野についても、自分で納得できるような理解の仕方をする事です。特に公式の導出はその原理から自分でできるようにしておくと良いと思います。
		* 苑田尚之先生の東大物理の授業を受け、テキストの問題を解きました。			* 過去問演習講座の2周目を解きました。			

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理Ⅰ 32 (20)		* 東進のテキスト及び学校のプリントに取り組んだため、特に参考書等は使用していません。			* 『リードα物理基礎』(数研出版)。特記事項の確認にのみ用いました。章のはじめの説明部分を読んでいました。			* 物理は、じっくりと演習を積むことで徐々に力が付く科目です。公式が使えるくらい基礎を固めた上で演習に取り組むと良いです。また、センターでは二次で出題されないような知識問題も出題されるため、知識の確認もセンター前に行く必要があります。
理Ⅰ 41 (40)	* 東進衛星予備校で、夏休みの初め頃まで苑田先生の授業を受けていました。	* 『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)の例題をそれぞれ一回ずつ解いていきました(9月初めごろまで)。		* 『難問題の系統とその解き方 物理』の演習問題を解いていきました。 * 東大特進で苑田尚之先生の授業を受講しました。		* センターの過去問数年分と、『2016年用 センター試験予想問題パック』(Z会出版)の物理の問題(2回分)を解きました。	* 東進の過去問演習講座を用いて東大の過去問を解きました。	* 夏休み終わりごろまでに全範囲をとりあえず1周して、その後演習を繰り返しました。
理Ⅱ 33			* 『名問の森物理』(河合出版)			* センター試験本番レベル模試で今まで間違えた所。		* 早めに全範囲を学習しておくことです。
	* 東大・東工大・早慶等の過去問で構成されたテキスト				* 過去問			
理Ⅱ 45 (30)	* 苑田尚之先生の「ハイレベル物理」のノートを熟読したうえで、『物理重要問題集』(数研出版)で主に力学・波動を学習し、まだ学習が進んでいなかった電磁気については『名問の森物理』(河合出版)を解きまし	* 原子分野を除き、『物理重要問題集』を解き終えました。東大の過去問を用いて進捗状況を確認しました。	* 未習得の原子分野の学習を進めつつ(東進の苑田尚之先生の講座)、その他の分野は『新・物理入門問題演習』(駿台文庫)を使い訓練していました。	* 原子分野の学習が迫っていたので、『物理重要問題集』『名問の森物理』を完成させました。計算力を上げるために『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)を学習していました。東進の過去問演習講座も利用しました。	* 解けなかった問題を復習していました。東大の過去問を分野ごとに解いていました。	* センター模試を解き直し、形式に慣れる練習をしました。9月からセンター前までで物理の過去問を25カ年終わらせました。	* 模試の過去問を使い、時間配分の最終的な調整をしました。東大模試のわからなかったところは、原理に戻りながら復習しました。	* 1番最初に原理を理解することだと思えます。問題演習は原理を確認し、計算力を上げる訓練なので、分からなかったり、不安に思うことがあったりすれば、ノートを開き原理から理解しましょう。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	
理Ⅲ (42)		*『物理重要問題集』(数研出版)を1周すべく、頑張りました。分からない問題があるときは、何が分からないのかじっくり考えるようにしていました。				*『名問の森物理』(河合出版)を1周すべく頑張りました。	*センター対策はしませんでした。東大受験者ならば、他のことをした方が賢明だと思います。 *11月ごろから過去問を化学とセットで解きました。『鉄緑会東大物理問題集』(角川学芸出版)を使いました。	*分からない問題がある時は、根本を理解していないことがあるので、何が分からないのかじっくり考えることが重要です。	
理Ⅲ 50 (40)	*理論や公式の導出方法などをじっくりと反復、確認をしました。	*『新・物理入門問題演習』(駿台文庫)で典型問題を一通り確認しました。	*過去問をしました。	*東大模試(河合・駿台・東進)の市販の過去問をやりました(化学とセットで)。	*過去問が不十分な理解のままの問題があったので、それを理解できるようになるまで繰り返しました。	*公式の導出方法をもう一度確認し直しました。センターは2年分解きました。	*解けなかった問題の解き直しをしました。	*理論や公式の導出の仕方を正しく理解することが大事です。それさえできればあとは問題を早く解く練習をすれば問題ありません。	
理Ⅲ (45)	*『物理重要問題集』(数研出版)の力学と波動の範囲を2,3周しました。	*『物理重要問題集』の残りの範囲を解きつつ、『名問の森物理』(河合出版)を解きました。	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)の例題と演習問題の一部を解きました。	*東大の過去問を化学とセットで週1回解きました。不安な範囲は「夏休み」の欄に書いた問題集の演習問題を解きました。	*問題を解く力が衰えないように『理論物理の道標』(河合出版)を気が向いたときに解きました。	*特になし。	『東京大学への理科』(駿台文庫)『入試攻略問題集 東京大学理科』(河合出版)をそれぞれ化学とセットで解きました。	*式の導出原理などを理解した上で問題演習を積むと良いと思います。	
理Ⅲ 53 (45)	*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)。一通り終わらせました。	*今までにやった問題をやり直し、弱点を見つける。			*弱点克服		*『東大の物理25カ年』(数学社)。実戦練習としてひたすらやりました。	*高3からひたすらに演習を積むのが大事です。	
理Ⅲ 53 (44)		*『難問題の系統とその解き方 物理』(ニュートンプレス)。例題を2,3周解くのもいいですし、演習問題を解くのもいいでしょう。				*過去問(1セット/週)	*過去問(1セット/週)	*過去問(2～3セット/週)	*物理は基礎を固めさえすればある程度の量は解けるようになります。残りは経験を積んで(沢山問題に当たって)多くのパターンに慣れていけば点数は伸びるでしょう。
								*過去問は途中経過もしっかり書き、間違いのポイントが分かりやすいようにするのが良いでしょう。友達と確認し合うのもおすすめです。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理 I 36 (25)			* 高校のテキスト					* 高校の指定(検定)教科書を軽視しないことが大事です。
理 I 31 (25)			* 『重要問題集』(数研出版)を解きました。 * 東進のハイレベル化学を受講しました。			* 『東大の化学25カ年』(教学社) * センターの過去問を5年分解きました。 * 『大学入試センター試験 実践問題集』(駿台文庫)を一周解きました。	* 「東大化学」のテキストの問題を全て解き、間違えたものはできるまで反復しました。 * 東大本番レベル模試の過去問を5回分解きました。	* 左記のように後回しにし過ぎると模試等を復習の機会として活用しきることが出来ずますますおいていかれるので、完全に放置するのはやめましょう。
理 I 35 (35)	* 『重要問題集』(数研出版)を高2の春から使用しました。10月ごろまで学校の授業の復習として使用しました。		* 『化学入試問題集-化学基礎』(数研出版)・『化学の新演習』(三省堂)の2冊の問題集を夏休みの間に全て解きました。	* 『重要問題集』(～10月)を解きました。 * 10月ごろから学校の授業で過去の入試問題を利用した演習をするようになったので、その予習復習を中心に勉強しました。		* センター試験の本試験・追試験の過去問を旧過程のものを中心に30回分ほど解きました。	* 過去問を7年分解きました。また、学校で配られた問題を大問で200問ほど解きました。	* 教科書の内容に穴を残さないようにする必要があります。有機化合物の名前も教科書に出てくる分は全て憶えましょう。東大の過去問に拘らず、様々な問題に手を出して、幅広い考え方が出来るようにする必要があります。
理 I 49 (40)	* 学校で与えられたプリント(出典不明)で知識をつけたため、問題集は使用していません。	* 学校で与えられたプリント(出典不明)で知識をつけたため、問題集は使用していません。	* 『重要問題集』(数研出版)を基礎固めに用いました。何周もする方が良いと思います。	* 学校で与えられたプリント(出典不明)で知識をつけたため、問題集は使用していません。		* 『センター化学 化学基礎+化学』(啓林館)をセンターの暗記事項確認の為に用いました。 * 『化学入試問題集2015』(数研出版)を用いました。実戦練習量に不安があれば取り組みたいと思います。		* 演習量が物を言う科目です。基礎の暗記事項が反射的に出てくるまで覚えた上で、演習にかかるべきです。センターの基礎知識問題は二次では聞かれないような問題もあるため、センター用の対策も忘れずに行うべきです。
理 I 35 (40)	* 特にしていません	* 学校の期末試験に向けて勉強していました。	* 『重要問題集』(数研出版)の全範囲を(9月初めごろまでに)一周しました。一日に5～7問ずつ解いていました。	* 学校の授業での演習問題の予習が中心でした。 * 他に『2015 化学基礎・化学入試問題集』(数研出版)を用いました。使用法は重要問題集と同様です。		* センターの過去問を2、3年分解きました。	* 東進の過去問演習講座を利用しました。	* 夏休み終わり頃までに全範囲をとりあえず1周して、その後演習を繰り返しました。
理 II 38 (35)			* 東進の「ハイレベル化学」を受講しました。それに載っている問題は完璧にこなせるようにしました。 * 『東大の化学 25カ年』(教学社)を昔のものから解きました。分量が少ない分、密度の濃い問題もあるので、しっかり時間を使って解きました。		* センターの過去問を行いつつ、ハイレベル化学のテキストを読み直しました。	* 新課程より以前の過去問をやってもあまり意味がないので、駿台や河合の新課程用の問題を行いました。	* 直近3年分の過去問と東進東大本番レベル模試の過去問を解きました。	* 化学はスピード勝負だと思います。有効数字など省略できるところは省略して75～80分でけりをつけましょう。
理 II 44 (44)			* 『セミナー化学』(第一学習社)を解きました。学習した範囲の定着に使いました。	* 『セミナー化学』『化学の新演習』(三省堂)を苦手分野を模試結果などから見つけて、その範囲を集中的に解きました。	* 過去問を解きました。	* それまでのセンター模試の解き直しをしました。	* 過去問を解きました。	* 模試や定期テストをペースメーカーにして、範囲ごとに完璧にしました。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理Ⅱ 43 (30)	* 東進の「ハイレベル化学」を受講しながら、『重要問題集』を解いていました。この頃は有機分野はほとんど学習が進んでいませんでした。	* 難易度が高い問題への対応をつけるため、『化学の新演習』(三省堂)を解き始めました。有機分野に関しては、学習した範囲までを『重要問題集』で解きながら、未習分野を無くそうとしていました。	* 『化学の新演習』を解いていました。有機分野は『ハイレベル化学』を中心に学習していましたが、全範囲は終わりませんでした。	* 『重要問題集』『化学の新演習』で解けなかった問題を解き直していました。有機化学の全分野の学習が終わったのが11月頃で遅かったため、過去問に入ったのも遅かったです。	* 直近数年分は残して、他の年は分野別に過去問を解きました。大問一つあたり20分を目安に解きました。	* センター対策を兼ねて、知識問題の確認をしました。	* 過去問を直近数年分を物理とセットにしてやりました。演習量を増やしたいとおもったので、模試の過去問などもしました。記述対策に東大特進の化学のテキストも読み直しました。	* 2学期までに全分野習得して、2学期以降は演習を積むべきだと思います。演習した分早く解けるようになるので、演習量は大切です。あと、解説などには記述に使えることが書いてあることが多いので、熟読するようにしましょう。
理Ⅲ 38 (38)		* 『重要問題集』(数研出版)を1周すべく頑張りました。				* センター対策はしませんでした。(東大受験生ならば他のことをした方が賢明だと思います。)		* 理論がしっかりしていると、無機や有機の学習がスムーズに進むので、まずは理論を得意にするのが良いと思います。 * 化学グランプリで金賞をとりました。
理Ⅲ 45 (40)	* 理論無機の知識固めをしました。 * 理論に関しては、定義を押さえて、あとは自分の頭で考えることが大事だと思います。無機有機はひたすら復習しました。	* 『新理系の化学100選』(駿台文庫)を一問一問丁寧に取り組みました。 * 有機の知識も定着させるようにしました。	* 過去問をやりました。 * 古めの年は最近にないような問題もありますが、良質な問題もたくさんあるので、早めにやっておくことがおすすめです。	* 物理とセットで150分の演習以外特に何もしていません。その分他の教科に時間をかけることにしました。		* 知識の総確認をしました。特に有機・無機を重点的に見直しました。 『重要問題集』(数研出版)の見直しなどもしました。	* 『新理系の化学100選』(駿台受験シリーズ)などで解けなかったものを解き直しました。直前期もここまで時間はかけませんでした。	* 化学は覚えることにもある程度上限があり、点数も比較的早く伸びると思うので、高1、2から早めに学習することが大事だと思います。
理Ⅲ 43 (43)	* 『重要問題集』(数研出版)の理論範囲を解きました。	* 『重要問題集』(数研出版)の無機範囲を解きました。	* 特にしていません	* 『重要問題集』(数研出版)の有機範囲を解きました。 * 『化学の新演習』(三省堂)の理論・無機範囲を解きました。 * 過去問とセットで週1回解きました。	* 『新理系の化学100選』(駿台文庫)の理論範囲をコツコツ進めました。	* 知識の復習をするため、『化学の新研究』(三省堂)を読み直しました。	* 『新理系の化学100選』(駿台文庫)を最後まで解き、感覚を取り戻しました。 * その後、『東京大学への理科』(駿台文庫)『入試攻略問題集東京大学理科』(河合出版)をそれぞれ物理とセットで解きました。	* 知識をきちんとインプットし、抜けがないように定期的に復習すると思います。
理Ⅲ 37 (45)	* 『化学の新演習』(三省堂)を一通り解きました。	* 今までにやった問題を復習・弱点を見つけました。		* 弱点克服しました。		* 二次過去問を解きました。実戦練習をひたすらやりました。		* 高3でひたすら演習をすることが大事です。
理Ⅲ 45 (49)	* 無機有機に関しては全くの無知だったので、基本的知識を『重要問題集』(数研出版)を用いて穴埋めし、夏休みに入るまでに終わらせました。	* 夏休みは7月中に『化学の新演習』(三省堂)を終わらせる計画を立て、時間を計って解きました。	* 8月中は、時間がかかりそうな問題を生物とセットで時間を計って解きました。	* 過去問を毎日1回、生物とセットで解きました。	* 過去問を毎日1回、生物とセットで解きました。	* センターの過去問を約10年分解きました。	* 直近の過去問、東大本番レベル模試を解き、時間に慣れるように努めました。	* 化学は時間との勝負なので、どの問題(例えば知識確認問題でも)も時間を計って解きました。
理Ⅲ 45 (46)		* 『現代有機化学(ポルハルト・シュアー)』(東京化学同人)を読み直しました。市販の高校化学の問題集は往々にして簡単すぎであったり、ただ計算させたいだけの問題が大量に載っていたりするので、無理にやらなくてもいいと思います。			* 過去問(1セット/週)を解きました。答案用紙の使い方を学べるようにやりました。	* 過去問(1セット/週)を解きました。東大の答案用紙を模した答案用紙を使ってやりました。	* 過去問(2-3セット/週)を解きました。東大の答案用紙を模した答案用紙を使ってやりました。	* 高校の化学は、しっかりと問題のパターンを把握し、少しの応用で解けるので、しっかりとパターン認識を練習しましょう。

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
理Ⅱ 34 (40)	<p>* 生物の教科書(東京書籍)を1行1行じっくりと読み込み、疑問点を見つけました。 * 『東大の生物25ヵ年』(教学社)を時間を計って行いました。問題の形式に慣れました。</p>				<p>* センターの過去問を解きました。 * 生物の暗記事項をあらかじめ書き出しておきました。</p>	<p>* 書き出しておいた暗記事項の再確認を行いました。</p>	<p>* ホルモンやバイオームなどの暗記事項の再確認を行いました。</p>	<p>* 特進のテキストと教科書だけやればいいです。 * 教科書の索引に書いてある事柄が全て説明できるレベルまで達すれば良いです。</p>
理Ⅲ 46 (45)	<p>* 勉強せず</p>	<p>* 東進の「ハイレベル生物」を受講し、知識の定着を図った。</p>	<p>* 左の作業とともに、数日に1回、化学とセットで二次型理科を解きました。(昔の過去問)</p>	<p>* 過去問演習講座で添削をしてもらい、随時知識の弱い所を埋めました。</p>	<p>* 過去問対演習講座で添削をしてもらい、随時知識の弱い所を埋めました。</p>	<p>* 知識の完成を優先した。過去問は10年分程解きました。</p>	<p>* 知識の最終確認と共に、スピードに慣れる練習をしました。</p>	<p>* 生物も化学と同様、いかに多くの情報を短時間に処理するかが鍵になるので、時間を意識して解きました。また、知識では絶対に点を落とさないよう、完璧にしました。</p>

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文 I (35)	* 世界史は東大の過去問の研究に終始したと思います。特別な参考書は使いませんでした。					* センター過去問を解いていました(約10年分)。	* 東進の東大本番レベル模試の過去問が非常にありがたかったです。	
文 I 34 (40)	* 『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)を読み、通史の理解を進めました。 * 『世界史B一問一答』(東進ブックス)を1月ころから始めました。語句を覚えるだけでなく、文章として覚えるようにしました。	* 5月までと変わりません。	* 東京書籍の教科書を読みこみました。また、一問一答の暗記を続けました。	* 『東大の世界史25ヵ年』(教学社)を用いて、過去問を解き始めました。センターまでに第1問と第2問は全て終わらせました。一問一答の暗記は続けました。	* センター対策として、文化史を詰め込みました。『タペストリー』(帝国書院)を熟読しました。	* 過去問を繰り返し解きました。	* もう一度過去問に取り組みました。一問一答の暗記を続けました。	* 第2問と第3問を取りこぼさないことが重要です。最後まで暗記を続けましょう。
文 II (45)	* 授業の進度が遅かったため、教科書→見取り図→教科書の順で先取りをしました。 * 知識定着のために『30日スピードマスター』(山川出版)を使用しました。	* 5月までと同様です。	* 5月までと同様です。 * 夏休み中に通史を1周終わらせました。知識の定着はいま一つでした。	* 夏模試である程度とれたため、ウェイトを下げ、少しずつ過去問を始めました。	* センター演習をしました。特に文化史に重点を置きました。	* センター演習を20年分やりました。 * センター試験を通じて知識の整理ができるので、しっかりやりました。	* 過去問を解きました。 * 第1問は差がつかないと思ったので、10年分解きました。 * 第2問・第3問は点を取りに行こうと考えていたため、25年分やりました。	* 早めの通史完了+第2問・第3問を重点的にやりましょう。 * 世界史は40後半は欲しいと思っていました。
文 III	* 山川の教科書を読みつつ、古代～中世の過去問を使った演習をしました。 * 『荒巻の世界史の見取り図』(東進ブックス)を買って、先生の授業の進みをバロメーターにしつつ読んでいきました。『世界史B一問一答』(東進ブックス)を買い、のんびり進めました。	* 基本的には5月までと変わりません。	* 一問一答を1周させましたが、夏模試に間に合わなくてとても焦りました。	* 一問一答の2周目をやりました。		* センター試験の過去問ばかりを解いていました。		
文 I 41 (30)	* 『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)……教科書で不明瞭な点が、この本を読むと良く理解できるようになった気がします。			* 『各国別世界史ノート』(山川出版社)……国別・地域別に知識を整理することで、縦のつながりが良くなるようになりました。 * 『世界史B一問一答』(東進ブックス)……知識を詰め込むために直前期まで5～6周しました。	* 『詳説世界史』(山川出版社)……学校で使っていた『世界史B』(東京書籍)という教科書とは別の視点を学ぶことが出来ました。			* 教科書は2冊以上読み比べると視点が增やせて良いと思います。僕の場合は早い時期から一問一答をやっていましたが、知識は覚えてもどんどん忘れるものなので、もっと遅くから始めても良かった気がします。
文 I 42		* 荒巻豊志先生の「スタンダード世界史B」を受講しました。				* 直前期まで『新世界史』(山川出版社)という教科書を熟読しました。		
文 I 40 (35)	* 『理解しやすい世界史B』(文英堂)……学校で未習だったところを埋めるために使用しました。 * 『1分間世界史1200』(水王舎)……ごく浅いレベルの知識を入れるため使用しました。	* センター過去問(1日1ヵ年分)		* 『東大の世界史25ヵ年』(教学社)……第2、3問をメインに使用しました。	* 『東大の世界史25ヵ年』……第1問の古い年度の解説を読んでいました。	* センター型問題集……1日2セット	* 『世界史B』(実教出版)・『新詳世界史B』(帝国書院)	* 未習範囲をとりあえず終わらせたいのならば参考書や一問一答で十分ですが、論述問題に対応するためには教科書の熟読が必要です。 * 第1問で得点を期待することだけはやめましょう。
			* 『世界史B』(実教出版)・『新詳世界史B』(帝国書院)……論述問題を解答する際の参考にしました。					
				* 『山川一問一答世界史』(山川出版社)……受験終了まで継続しました。				

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	
文Ⅰ 42	* 教科書3冊(東京書籍、山川出版、帝国書院)と『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)を読み込みました。 * 問題演習は荒巻豊志先生の授業の予習で確保しました。			* 知識の確認の為にセンター試験過去問を少しずつ解き始めました。				* センター対策の比重を増やしましたが、それでもやはりやることは同じです。徹底的な教科書との格闘です。 * 荒巻豊志先生の授業の復習を中心にして、過去問の点検、演習をしました。	* 歴史科目は教科書に始まり過去問に終わります。まず教科書を熟読してセンター試験で満点を取れるレベルに知識を蓄えることを最優先にするべきです。あまり早くから論述対策を行っても得るものは少ないです。焦りは禁物です。
文Ⅰ 41	* いきなり教科書を読んでもよく分からなかったのが、『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)で流れを掴もうとしました。 * 『山川 一問一答世界史』(山川出版社)を始めました。	* 山川の教科書の熟読、一問一答を並行していました。		* 東大の過去問を解き始めました。点数が悲惨であったため、『世界史B』(東京書籍)を線を引きながら読み始めました。	* 『世界史B』(東京書籍)を熟読しました。過去問を進めるうちに頻出の分野が分かったので、『荒巻の新世界史の見取り図』(東進ブックス)を分野を絞って読み直しました。	* センターの過去問を15年分ぐらい解き、解答もしっかり読んでいました。	* やり直しも含め直近の過去問10年分を解き直しました。第1問に関しては『東大の世界史25ヵ年』(教学社)を解き直しました。『世界史B』(東京書籍)を熟読し、第2問で出題されそうな箇所を見つけ出してはノートに書き込んでいました。		
文Ⅱ 40 (25)	* 特になし。		* 『世界史B一問一答』(東進ブックス)を使って単語をパラパラ眺めていました。英数メインだったので、あまり力を入れていませんでした。	* 教科書(東京書籍、実教出版、浜島書店)を購入し、少しずつ読んでいました。	* 『センター世界史が9割とれる本』(中経出版)を1日1周読んでいました。	* 1日にセンター過去問1年分解きました。	* 過去問を1日3年分ぐらい解いて、間違えた部分は単語帳に書いて暗記しました。 * 第3問対策で『世界史B一問一答』(東進ブックス)をやっていました。	* 英数の学習が遅れている人は夏までは英数にしっかり力を入れるべきだと思います。 * 世界史は第2問・第3問を押さえれば、大差をつけられることがないと思います。	
文Ⅱ 35 (40)	* 東大同日体験受験で世界史が0点だったことにショックを受け、世界史学習を最優先することにしました。通史を行う際、山川の教科書、東京書籍の教科書、世界史の見取り図の3冊を併用し、比較しながら読み進めることでモチベーションを保つことができました。世界史が苦手な人は第2問・第3問対策に全力を注ぐと良いと思います。	* 5月までと同様の方法で通史を進めました。6月の東大本番レベル模試では世界史で20点ほど取ることができたため、成長を実感しました。	* 夏休みは英語や古典にあまり進みませんでした。ただ、夏休み前までにきちんと通史が出来ていれば世界史学習を中断しても点数が急に悪くなることはないと思います。	* この時期から第2問・第3問の過去問演習を始めました。その際、東大で出題されたところの解答として使えるような教科書の文章に赤線を引いていきましたが、この方法は後に非常に役に立ちました。	* センター世界史対策を兼ねてもう一度通史を行いました。世界史は通史が学習の基本なので、丁寧に繰り返すといえると思います。	* センター過去問を25年分解きました。この時期は二次対策は出来なかったものの、センター過去問のおかげで知識を保つことができました。	* 『世界史論述練習帳New』(中谷臣、パレード)を活用しながら、第1問対策を一気に進めました。この本は本当に良書なのでお勧めです。また、第1問は出題テーマが何度も繰り返されることが特徴なので、過去問の復習は本当に大事です。	* 第2問・第3問対策は通史を丁寧に繰り返すことで十分だと思います。第1問は指定語句にとらわれすぎることなく、問題文の要求に答えることを最重要に考えて書くことが重要だと思います。	
文Ⅱ 42 (25)	* 教科書熟読をしました。 * 『世界史一問一答』(東進ブックス)を授業でひと段落つくごとに読みました。	* 教科書熟読をしました。 * 『世界史一問一答』(東進ブックス)を授業でひと段落つくごとに読みました。	* 教科書熟読をしました。 * 『世界史一問一答』(東進ブックス)を授業でひと段落つくごとに読みました。	* 5月までの勉強方法に加えて、学校の先生に400字程度の論述の添削をしてもらっていました(前期試験本番少し前まで)。	* 5月までの勉強方法に加えて、学校の先生に400字程度の添削をしてもらっていました(前期試験本番少し前まで)。	* センター試験の過去問を10年分ほど解き、苦手な分野や時代を見つけて教科書を再読しました。	* 過去問をひたすら解きました。教科書での知識補充も並行して行いました。	* 知識の穴を作らないことが大事です。 * 得意な地域などに頼りすぎていると、知識に偏りが出来てしまいます。まず、大まかに流れや特徴を掴んでから、細かい所を補充していくと良いと思います。	
文Ⅲ 47 (40)	* 『書き込み教科書』(山川出版社)を2周しました。	* 東進で東大対策世界史の授業を取り、論述の基礎を学びました。	* 東大対策世界史の授業の復習を2周し、空き時間で『書き込み教科書』に『世界史一問一答』(東進ブックス)の星2個以上の単語で載っていないものを書き足しました。	* 荒巻豊志先生の授業を取りました。『書き込み教科書』を空き時間に眺めていました。	* センター試験の過去問を解き始めました。論述は荒巻豊志先生の授業でのみ触れていました。	* センター試験の過去問をやり直していました。	* 過去問を10年ほど解きました。	* 基礎は高3春までに固めておくべきです。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文 I (35)	* 日本史ナメてました(すいません)。分かったことは中学受験の時の成績と大学受験は関係ないということです。			* 11月の模試で現実を突き付けられたボクは本気で日本史をやることに決めました。		* 文化史は諦めました。	* 東進の東大本番レベル模試の過去問は素晴らしいです。	* 気合いが大事だと悟りました。	
文 I 47 (35)	* 「論述の基本」を完成させました。	* 5月までと変わリません。	* 山川出版の教科書を読み込みました。	* 東大日本史の過去問を解き進めました。	* センター対策として、文化史対策の問題集を進めました。				
文 II (35)	* 東大同日体験受験で30点台が取れたため、勉強のウエイトは低めでした。 * 学校の論述演習・東進の授業の予習・復習のみでした。	* 5月までと同様です。		* 夏模試で日本史が壊滅的だったので、ウエイトを増やしました。参考書を進めました。	* センター演習をやりました。特に文化史に不安を抱えていたため、資料集を読みました。	* センター演習をしました。フルで10年分、文化史のみピックアップしたものを20年分やりました。	* 過去問を直近10年分と、その他、優先して取り組んだ方がよい過去問を解きました。	* 東大日本史は過去問研究が肝だと思うので、できるだけ多くの問題に触れられるよう早い段階から過去問演習を始めるといいと思います。 * 日本史はどちらかというと苦手です。30点あれば十分と思って勉強してしまいました。	
文 I 42 (40)			* この時期から過去問演習を始めました。	* 『東大日本史問題演習』(東進ブックス)を解きました。過去問の他に予想問題もついており、演習に適していました。	* 『山川の一問一答 日本史』(山川出版社)を、センター対策で使用しました。		過去問演習が終わったのが二次試験の2週間前で、その後は過去の東進東大本番レベル模試を解いていました。	* 日本史は他の教科と比べても特に過去問演習が重要だと思います。教科書を読み込みつつ計画的に過去問をつぶしていくと良いと思います。	* 東進で日本史の授業を受け、教材も活用していたほか、高校の先生の教材を積極的に利用していました。
文 I 41 (40)	* 日本史の参考書と教科書の古代を読みました。	* 日本史の参考書と教科書の古代と中世を読みました。	* 教科書を読み込み、古代、中世、近世のイメージをつくりました。	* 古代、中世、近世の論述の練習をしました。 * 東大の過去問を1題ずつ解いた後に、論点をノートにまとめました。	* センター対策のみ行いました。		東大の過去問1年分を2日に1回ペースでこなしました。	* 大きなイメージを持ちましょう。	
文 I 45		* ひたすら教科書(山川出版)を熟読し、少し過去問にも触れました。			* 二次過去問の演習を開始しました。もっと早く始めるべきでした。	* センター試験にむけて現代史など二次で出づらな部分を重点的に知識をつめこみました。	* 東進東大本番レベル模試の復習と過去問演習をしました。	* 最も過去問演習が役立つ科目です。まず教科書をベースに知識を蓄え、徹底的な過去問との格闘を通じて東大日本史のクセを体にしみこませることで、かなりの高得点も可能です。	
文 I 42 (35)	* 日本史の参考書を、学校の教科書も並行しながら順に進めて、歴史の流れを捉えるよう努めました。		* 参考書を読みすすめました。 * 過去問演習を徐々に進めていきました。	* 過去問演習を行いました。問題を解いた後に、模範解答に加えて参考書の該当箇所も参照しました。	* 『センター試験過去問研究 日本史B』(教学社)を用いてセンターの過去問演習をおこないました。正誤問題では誤文のどこが間違っているかを考えるように努めました。		* 過去問の今まで解いた問題の復習や直しを行いました。 * 参考書の復習をしました。	* 知識のインプットはアウトプットの練習の前に必要ですが、前者だけだとどうしても効率が落ち気分も減入ります。学んだことをアウトプットするような教材を常に利用してほしいです。	
文 I 40 (30)	* 日本史の知識がほぼゼロの状態であったため、山川の教科書を読み始めました。 * 一問一答ではなく、『詳説 日本史ノート』(山川出版社)を進めました。	* 山川の教科書を熟読しました。 * 参考書を読み始めました。	* 『大日本史』という教科書を読み始めました。	* 過去問を解き始め、過去問演習講座で添削をうけました。		* センターの知識が危うかったため、センター過去問を解いていました。日本史は本当に苦手でしたが、センター対策をして知識が定着しました。	* 過去問10年分を分野別に2周しました。この頃は論理的に正しいことを書くよう答案の書き方を意識して演習していました。		

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント	特記事項
文Ⅱ 52 (40)	*特になし	*特になし	*参考書を1周して論述の基本をおさえました。	*授業にあわせて『詳説日本史』(山川)を読みました。特に太線部ではないところを重点的に目を通しました。	*『センター日本史一問一答』(東進ブックス)を購入し、1日1周を心がけました。1日1周すれば嫌でも頭の中に残ります。	*冬休みの分に加え、1日1年分センター過去問を解きました。	*過去問を一気に消化しました。全ての問題に対して答案を作る時間は無かったので、解答のプロットを考えて答えと比較していました。	*問題に正面から答える訓練を積むことがなにより(日本史の単語を覚えるより)大切だと思います。「この問題は何を問うているのか」を考えていないと痛い目にあいます。	
文Ⅱ 50 (40)	*センター試験同日体験受験では日本史が40点台だったので、通史が不可欠だと思い、参考書や山川の教科書を活用し通史に取り組みました。近代は覚えることが多く非常に大変なので、知識が不安な人はまず古代から近世を固めていけばいいと思います。	*6月の東大本番レベル模試では古代、中世、近世で良い得点を取ることが出来たものの、近代は全く太刀打ち出来なかったため、近代の知識詰めを積極的に行いました。	*夏休みは英語や古典に時間を割き、日本史の勉強はあまりしませんでした。受験は総合得点勝負なので、学習が日本史に偏りすぎないようにしましょう。	*この頃から過去問演習を始めました。過去問は本当に貴重な素材なので、一度解くだけで終わることのないようにきちんと復習しました。 *この時期に使用した、『日本史講義2 時代の特徴と展開』(駿台文庫)は東大日本史を解く上で非常に役に立ったのでお勧めです。	*センター日本史対策を兼ねてもう一度通史を行いました。その際、「歴史の大局観」を養うことを意識すると、東大日本史が解きやすくなるはずで	*日本史対策はセンターの過去問を解くばかりで二次向けの対策はできませんでした。ただ、センター過去問演習を通じて知識の穴を埋めることが出来たので、二次にも少し役だったかなと思います。	*過去問の復習に専念しました。その際「どのような答案の書き方をすれば伝わりやすいか？」ということを常に意識しました。	*東大日本史は独特な形式で出題されるので、早めの過去問演習で慣れておくことが大事です。また、問題文をしっかりと読み、「何が問われているのか？」をきちんと把握しましょう。「留意せよ」などの指定にも意識を向けることを忘れないで下さい。	
文Ⅱ 45 (35)		*『日本史B 一問一答』(東進ブックス)を学校の進度より早めに通読しました。			*参考書を使用しました。気付いたこと、初めて知ったことはとりあえずなんでも書き込みました。音読もしました。			*参考書に学校で習ったこと、演習で知ったことなどを自分なりにまとめて書き込みました。大きな流れや物事の因果関係を理解することが大切です。	
文Ⅱ 36 (35)	*教科書を熟読しました。(通年)			*参考書を読み始めました。	*参考書を用いて、センター、二次両方に必要な知識を身に付けました。	*センター過去問を10年ほど解きました。一問一問の選択肢の吟味を行い、二次を想定したうえで演習を行いました。	*過去問を10年分解きました。初めは解説を読みながら思考のプロセスを習得し、問で聞かれている内容を的確にとらえることを意識しました。	*細かい知識はあるに越したことはありませんが、それ以上に、提示された資料を読み解く力や問の本質を見極める力を養うために、少しでも多くの過去問に触れてほしいです。	

科類	～5月	夏休み前	夏休み	9～12月	冬休み	センター前	前期二次試験前	学習重点ポイント
文 I 40 (40)	* 学校の授業のみでそれ以外はやっていません。	* 学校の授業のみでした。(授業があったため)		* 学校の授業に加えて、論述演習(過去問を週1ペース)で解きました。	* センターのみやりました。間違えた問題をノートにまとめ、復習しました。		* 『東大の地理 25カ年』(教学社で演習しました・間違えたり、分からなかったりした問題は解説を読み、覚ええました。	* 理解することが大事です。(気候と文化は関係しています)
文 I 49				* 学校の系統地理の授業はちゃんと受けていたのですが、地誌は全く聞いていませんでした。この頃に学校でやったセンター演習が非常によかったと思います。良問揃いのセンターで分からない問題を作るのはよくないと思って潰していきました。			* センター地理の点数が良かったので、地理に多くの時間を割きました。東大地理の問題演習をしながら、重要事項を頭に入れ、また、解答を書くことを重視しました。	* 私は知識量よりも、問題を解く際の方法論を重視しました。また、短時間で論述ができるように訓練を積んでおかないと、いくら地理に時間をかけても本番の点数につながらない可能性があるので注意してください。
文 I 36 (40)	* 『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(系統地理編)』(東進ボックス)を一日一章読むことを目標にしました。ただ、分量が多く平均したら2日で1章程度になっていたと思います。		* 『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(系統地理編)』(東進ボックス)を適宜参照し、『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(地誌編)』(東進ボックス)を1日1地域を目標にしました。 * センター試験地理B過去問を1日大問2つ解きました。		* 『2016マーク式総合問題集 地理B』(河合出版)を1日1セット行いました。	* センター地理型問題集(色々な出版社のもの)を解きました。 * 『センターはこれだけ！新田正昭の地理B』(文英堂)の解き方が詳しく参考になりました。	* 『東大の地理 25カ年』を2日に1年分解きました。	* 開示を見て思ったのが、自分の記述能力の無さでした。解答速報を見た限りでは確実に40点はあったと思っていました。しかし、結果は散々でした。やはり、普段から十分な記述答案作成を行っていないといけなかったなと痛感しました。
文 I 39 (25)	* 『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(系統地理編)』(東進ボックス)を読みました。基本的な知識が少なかったため、これを用いて知識のインプットから開始していきました。	* 『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(系統地理編)』(東進ボックス)『村瀬の地理Bをはじめからいねいに(地誌編)』(東進ボックス)を読みました。 * 系統地理編が終わり次第、地誌編へ移りましたが、この2冊では内容に対応箇所があるため、これらは常にセットで持ち歩いています。また、年間を通して、これらはいつでも見返せるよう地理の勉強をする時は常に常備していました。 * 夏休みは何周もして記憶の定着を図りました。		* 『東大の地理 25カ年』(教学社)を非常にゆっくりとしたペースでしたが、問題演習を行いました。最近のものは時間を計って行い、昔のものは大問別に解きました。 * 『センター試験過去問研究地理B』(教学社)を時間を計り解きました。問われていない選択肢も考えるなどして力をつけられるようにしました。 * 徐々にセンターの割合を高めていきました。			* 『東大の地理 25カ年』(教学社)で残っていた直近の問題を時間を計って解きました。加えて、今まで解いた問題の復習も行いました。	* 二次でも基礎の知識を活かすことが重要な科目なので、センターの過去問なども重要な教材として活かすのが大事だと思います。
文 II 33 (30)	* 『新 地理重点ノート』(九州高等学校地理教育研究会)の ①穴埋めをする ②授業で習ったことを書き込む などして勉強していました。		* ③センター試験の過去問で初めて知った知識を書き足しました。		* ④二次の過去問で初めて知った知識を書き足しました。			* 系統地理を早めに終え、地誌を学んでいく上で系統地理の知識を応用すると、知識の体系化が行いやすいです。1冊のノート型参考書に、演習で得た知識を書き込んで、つながりを可視化すると思います。
文 III 38 (20)				* 『地理の研究』(帝国書院)で諸内容を確認しました。	* 『地理の研究』のコラム欄やトピックを空き時間に読んでいました。	* センターの過去問を2年分解きました。	* 過去問を10年ほど解き、諸内容を『地理の研究』(帝国書院)で確認しました。	